



## 謹賀新春

### 新年ごあいさつ

牧陵会会長 直井ユカリ（高校 32 期）

新年明けましておめでとうございます。

旧年中、会の運営及び各種事業の実施にあたり会員の皆様方からご理解とご協力を賜りましたことに心から御礼申し上げます。元日の横浜は好天に恵まれ、比較的暖かく、穏やかな年明けでした。

昨年の 5 月 23 日には横濱第三中学校、横浜第三高等学校、横浜緑ヶ丘高等学校の創立 100 周年記念式典が催行されました。母校は 1923（大正 12）年に創立されていますので 100 年を迎えたのは 2023（令和 5）年でしたが、折しも新たな体育館の建設があったことから記念式典は新体育館の竣工を待って開催されたものです。当日は、在校生のみならず牧陵会会員も参加し、会員を講師とした記念講演や在校生と会員のコラボレーションによる母校の歴史紹介、在校生による音楽やダンスパフォーマンスなど、緑高生（在校生＋牧陵会会員）の緑高生による緑高生のための式典でした。詳しくは、牧陵ニュース前号に詳細報告がありますが、母校創立 100 周年記念事業を通じて私自身も改めて緑高を卒業したことに誇りを持ち、在学中に多くの素晴らしい友を得たことを再認識する機会となりました。皆様からご支援いただきました 100 周年記念募金は、今年度末までに学生会館（グラウンド横の運動部部室がある建物）の補修等に充てることになっています。さて、母校の創立 100 周年の次は牧陵会 100 周年です。牧陵会は母校創立から 5 年後、1928（昭和 3）年に横濱第三中学校第一期生が卒業した直後に誕生していますので、2028（令和 10）年に 100 周年を迎えます。今後、役員会で牧陵会 100 周年に向けての準備体制やスケジュール等の案をつくり、今年 6 月に開催予定の年次総会において決定してまいります。会の大きな節目を祝い、次の 100 年に向けてさらに飛躍していくための取り組みを検討したいと考えていますので、皆様から様々なアイディア等をお寄せいただきたく、よろしくお願い申し上げます。

卒業後、何となく母校から足が遠のいている会員の方、気軽に牧陵会行事に参加してみませんか？ あっという間に空白期間が埋まり、高校時代の自分自身、そして友人に再会できます！

今年も、役員一同、会員相互の交流と親睦を図り、併せて母校の発展に寄与するための活動に尽力いたしますので、皆様のお力添えをお願い申し上げます。

この 1 年の皆様のご健勝、ご発展を祈念いたします。

### 新年ごあいさつ

校長 坂元 久美子（高校 35 期）

新年のご挨拶を申し上げます。牧陵会会員の皆様には、日頃より本校の教育活動にご理解ご協力を賜り、ありがとうございます。

昨年は、創立 100 周年記念式典、緑のフェスティバル・緑高セミナー、と皆様にお会いできる機会が複数ありました。記念講演、セミナー講師、生徒向け講演会、と同級・同窓のご縁で役割を引き受けいただいた皆様。学校へ足を運んでくださった皆様。改めて、緑高のつながりのありがたさを感じた一年でした。

校内では、新体育館完成後も様々な整備が進んでおります。

◆正門周辺 敷地内の斜度調整とスロープ設置のための工事でした。スライド式の新しい門扉になりましたが、校名板は新門柱に大切に移設。入って右手に、スマートな校内案内板も新設されました。この工事で、倒木の恐れがあった桜を 2 本伐採したのは寂しいことですが、次項の庭に新たな桜が植樹されました。

◆「憩いの庭」 旧体育館跡の広い場所を、庭園にしました。10 年前の南館建設の際、植え込みや中庭がなくなりましたが、その緑地を引き継ぐ思いも含めたつもりです。生徒・職員はもちろん、牧陵会卒業生の皆様、後援三徳会保護者の皆様とご一緒に、この場所を「憩いの庭」として育てていければと願っております。植樹したのは、河津桜・八重桜各 1 本をはじめ、七竈・伊呂波紅葉・蟬梅・槿・花海棠・梯梧・金木犀・百日紅・花水木・山法師・紅要鶯・躑躅・梔子等。生徒たちも、芝生が根付いて柔らかな緑になるのを楽しみに見守っています。暖かくなりましたら、来校の際に、ぜひご覧ください。

◆生徒会館 創立 100 周年記念事業の大項目としていただきました、築 60 年の生徒会館の、30 年ぶりの改修工事中です。危険箇所の修繕に加え、外見も整えるところまで予算措置をしていただきました。誠にありがとうございます。外壁は「とりのこいろ」、手すり・階段は「コーヒープラウン」、窓枠は「深緑」で仕上げます。完成後は、記念プレートの設置を考えております。

◆その他 旧体育館除却の際に敷いた鉄板の跡の整備として、野球の内野部分を中心に、グラウンドの整地改修を 1 月中に実施。校地東側外周のフェンス改修工事と樹木整理も、現在進行中。すっきりとした外周となり、地域の方にも喜ばれています。

来年度は、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）次期申請という大切な節目となります。緑高の一層の発展を願い、生徒・職員一同励んでまいります。引き続き、ご厚情とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## 各部会の活動報告と来年度方針

### 総務部会 活動報告

総務部会長 丸茂 健一（高校 44 期）

総務部会の主な活動としては、2025 年 6 月 7 日（土）の定時総会の準備および当日の運営を行ったほか、同日の懇親会の運営も担当しました。その他、毎月の役員会の議事録作成、事務所運営関連の経理、庶務などを執り行ってまいりました。2025 年の振り返りとしては、総会に向けた決算資料および当日配布資料の準備がギリギリになったところが反省点として挙げられます。今年は早めに準備を進め、万全の体制で総会に臨みたいと考えます。また、今年度より会員部会が分離独立し、若手メンバーを中心とした活動が活発化しています。総務部会としても会員の注目度を上げる活動に今後も積極的に協力していく所存です。

来年度の方針としては、会費増収に向けた取り組みに尽力していきたいと考えています。そのきっかけづくりとして、前年度から申請していたスマホ決済サービス「会費ペイ」を早期に導入し、校歌祭や緑のフェスティバルのようなイベント時にその場で簡単に会費を支払えるシステムを整備したいと思います。来年度は、幹事として新メンバーも迎える予定です。総会準備、事務所運営を通常通り行いながら、牧陵会関連イベントのサポートにもますます注力していきたいと考えています。

### 事業部会

事業部会長 中村 ひとり（高校 26 期）

皆様、昨年は大変お世話になりました。一昨年は 100 周年記念事業として「ぜんりょく音楽祭」があったので継続イベントである緑のフェスティバルが開催できませんでしたが、昨年 11 月に再び緑のフェスティバルを開催することができ、新築なった体育館の音楽イベントを含め多くの方に参加いただき感謝申し上げます。また第 20 回の節目を迎えた「青春かながわ校歌祭」は吹奏楽 OBOG 楽団の一部メンバーと現役チア部の参加をいただき、三中校歌と緑高校歌を高らかに歌ってまいりました。この二つのイベントは 20 年にわたって先輩諸氏から繋いできた大きなイベントになります。特に緑のフェスティバルのような OBOG が主体となって学校で開催する催事は県立高校では珍しいものです。今年も新たな企画を含め世代を超えて繋がりを感じてもらえる活動を考えていきたいと思っています。多くの会員の参加をお待ちしております。

### 会員部会

会員部会長 田原 正崇（高校 44 期）

2024 年 6 月からの現在の役員体制になってから当初事業部会の副部会長兼青年部会長としての任務をスタートしましたが、会費納付会員数の伸び悩み、若手会員の活動活性化という課題を直視した結果、任期途中の 2025 年 6 月から会員部会長として会費納付会員数増加に向けた活動を開始すると共に、青年部会長は会員部会で bukaichou 副部会長をやっている、吹奏楽部 OBOG 楽

団団長でもある高校 73 期の佐藤颯さんにバトンタッチをさせて頂き、若手会員の活動活性化を加速させる運びとなりました。

#### ◆2025 年度の活動報告

- ・青年部会長を若手に委譲
- ・牧陵会情報発信方法の多様化模索（牧陵会新聞、公式 Facebook、公式 LINE に加え、若手主導によるInstagramでの発信開始）
- ・OBOG 活動活性化支援（各種同好会、吹奏楽部 OBOG 楽団、管弦楽部 OBOG 楽団等の支援等）

#### ◆2026 年度の活動方針

- ・若手会員の活動活性化支援（若手会員に資するセミナー、イベント等の開催等）
- ・会員情報のデータベース化検討
- ・会費納付方法の多様化検討
- ・費用対効果の大きい牧陵会事業への投資検討
- ・牧陵会 100 周年事業イベント企画（横浜スタジアムでの開催模索等）

課題解決にはまだまだ時間がかかりますが、引き続き青年部会や同期会幹事委員会、各種同好会、OBOG 会と連携しながら、牧陵会の更なる活性化に向け微力ながら精進して参りたいと思います。皆様、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

### 広報部会・活動報告と今後の計画

広報部会長 西尾 匡弘（高校 33 期）

#### 1. 活動報告

##### （ア）新聞発行

- ◆「牧陵新聞」を年 2 回発行とし、「第 49 号」を 8 月に発行、「第 50 号」は 2026 年 1 月に発行予定（50 号はメール配信とホームページ掲載のみとする。）

##### （イ）事業の広報活動

- ◆「記念事業募金」「みどりのフェスティバル」「青春かながわ校歌祭」等について、全会員へのホームページ、メール配信し、周知活動を行った。

##### （ウ）ホームページの改善（ホームページ管理委員会）

- ◆新着情報がわかりやすく告知できるページ構成に改善を図った。継続して、改善をすすめている。

##### （エ）今後の新聞のあり方について検討

- ◆送料等の値上げにより見込まれる広報予算の増加に対するコスト削減について検討した。具体的には紙媒体を不要とする会員への発送停止とメルマガ・SNS 等を利用した情報周知方法等を他部会との合同で検討し、メール配信の活用を図った。

#### 2. 来年度活動方針

##### （ア）新聞発行

会費納入方法の追加などと、新聞発送に振り込み表の同封について検討を進める。

##### （イ）ホームページ SNS 連携強化

Instagram、Note などの SNS を連携を進める。



**校史資料室運営部会**

校史資料室運営部会部会長 片倉正一（高校 23 期）

## ◆令和7年度の活動報告

校史資料室について 2 点、大きな変更をしました。緑のフェスティバル等で掲示してきた100年史の資料をラミネートフィルムに封入して、図書室側の壁に 24 枚掲示しました。代わりに略年表を外してあります。また室内の壁におよそ5年おきくらいで紹介されていた職員写真を全て外し、クリアブックに全ての年度の職員写真をコピーして入れておきました。4冊ほどになっており、今後も毎年追加していきます。

## ◆令和8年度の活動予定

職員写真を外して空いた壁に100周年記念行事の写真を掲示します。また事務用品関係の過不足を調査し、適宜補充します。また 2028 年の牧陵会 100 周年に向けて、牧陵会の歴史に関する記事を作成すべく準備を始めたいと思っています。資料は過去の牧陵会発行の機関誌(初期の分は残ってません)と中学時代の卒業生による同期会誌です。

**同期会幹事委員会**

同期会幹事委員会委員長 田原 正崇（高校 44 期）

2025 年 6 月から会員部会長と兼務する形で、前任の先輩から当職を引き継がせて頂きました。コロナの影響もあり、同期会幹事委員の形骸化という大きな課題を抱えている中、どのように同期会幹事委員会としての活動を活性化させていけるか、まだまだ暗中模索状態ではありますが、同期会幹事委員会の活性化が牧陵会の活性同期直結することは間違いありませんので、同期会幹事委員会のあるべき姿を模索しつつ、少しずつでも歩を進めて参りたいと思っています。

## ◆2025 年度の活動報告

・同期会幹事委員会の開催(2025 年 11 月 15 日開催の緑のフェスティバル開催時)

## ◆2026 年度の活動方針

- ・同期会幹事委員の再定義・周知徹底
- ・同期会幹事委員の活性化検討(縦横の連携強化含む)
- ・同期会幹事委員会の開催(本年度は複数回開催したいです)

同期会幹事委員会の活性化にはまだまだ時間がかかりますが、引き続き同期会幹事委員の皆様はもちろんのこと、会員部会や青年部会、各種同好会、OBOG 会と連携しながら、牧陵会の更なる活性化に向け微力ながら精進して参りたいと思います。皆様、引き続きどうぞよろしくお願い致します。

**2025 年度 緑のフェスティバル開催**

11 月 15 日(土)、爽やかな秋晴れのもと、今年も「緑のフェスティバル(ホームカミングデー)」を開催しました。

当日は多くの卒業生・ご家族の皆さまにご来場いただき、世代を超えた交流の輪が広がる温かな一日となりました。

**緑高セミナー:小西 潮さん講演「喫茶去」**

高校 35 期のガラス作家の小西潮さんが講演を行いました。タイトルは「喫茶去」。繊細な作品の紹介とものづくりへの想いが語られました。また緑高茶道部の現役生とのコラボレーションによって、和菓子と抹茶が振る舞われ、贅沢な時間になりました。

**新体育館ステージは若手パワー**

MG BIG BAND 約 15 名の若手プレイヤーによるビッグバンド、圧倒的な迫力と熱気にあふれるサウンド、OBOG 吹奏楽団 高校時代に培った「緑高吹」の絆で、懐かしさと迫力が交差するステージ、ペドウィンズによる素朴で温かみのあるサウンドの演奏に、会場は拍手と歓声であふれました。

会場は拍手と歓声であふれました。

**図書室イベントも大盛況**

朗読ライブでは高 63 期の池田彩純さんが、声の魅力と物語の力を、ライブ形式でお届けしました。深い物語の世界に引き込まれた時間でした。

**盆栽クラブ(同好会)のメンバーの作品展示 緑雅展 も多くの作**

品を展示し、各作品とも樹形が見事で素晴らしいものでした。

盆栽ワークショップでは初めて盆栽に触れる参加者も多く、和やかな時間が流れました。

## 校内企画・OB 会も世代交流の場に

ガイドツアーは、久しぶりに学校を訪れた卒業生に特に好評でした。



板”など、在校当時を思い出すものでした。

新しい校舎のファザードの木板の説明からはじまり、新しくなった正門、プールを通り、歴史記念物？のような部室（生徒会館、100周年記念募金で改修予定）、南門前の”平台貝塚の案内

山岳部 OBOG の会(横浜三稜会)の喫茶コーナーは、テントサイトをイメージしたコーナーでコーヒー・紅茶とアップルパイが提供されました。



電気部 OB 会の無線デモでは、小さなチップで組み立てたモジュール符号の練習機が展示され、モノ作りの魅力を示した展示となりました。

## 【開催報告】ホームカミングデイ「後夜祭」開催



ホームカミングデイ終了後の恒例行事として、YCAC（横浜カントリー&アスレチッククラブ）体育館にて「後夜祭」を開催しました。

当日は 100 名を超える卒業生・ご家族が参加し、体育館いっぱいになりテーブルが並ぶ和やかな雰囲気の中、世代を超えた交流が生まれるとても温かい時間となりました。



## 第 20 回青春かながわ校歌祭

10 月 18 日(土)やまと芸術文化ホールにて開催されました。昨年に続き多くの学校が参加し、盛会となりました。



## 事務局より

牧陵会では、皆様への情報提供・共有するツールとして、紙媒体の「新聞」発行を中心に広報を行い電子メディアの「Web・ホームページ」「Facebook」等も併せて活動をしてまいりました。総会でご報告のとおり近年の諸経費と郵送料の増加の影響を受け、紙媒体から電子メディアの運用に軸足を移していくこととなりました。

牧陵会は歴史ある同窓会であるため幅広い年代の会員の皆様がおられます。きめ細かい情報提供のあり方を模索しております。

## 新聞の配布について

新聞の紙面はホームページに掲載し、インターネットの環境から閲覧可能となっています。

賛同いただける方への新聞(紙媒体)の配送を停止し、メール配信で URL リンクを知らせる方法に変更します。

賛同いただける方にメールアドレスを登録いただくページを設置しました。

すでに メールアドレスをお届けいただいている方も、配送停止の確認とメールの本院確認のため、住所、氏名等の入力をお願いします。

[https://bokuryoukai.com/request\\_delivery/](https://bokuryoukai.com/request_delivery/)



## 電子メディア(Instagram)による発信について

今年度より、牧陵会の公式 Instagram と note が始動しました。

Instagram では、牧陵会の最新情報や、イベントのお知らせ、卒業生の活躍をご紹介します。note では、活躍する卒業生のインタビュー記事を掲載中です。緑高の卒業生が繋がる場として、より一層充実した内容をお届けできるよう、尽力して参りますので、ぜひフォローと共有をお願いいたします！

## アクセス情報

ホームページ: <https://bokuryoukai.com/>

Facebook:

牧陵会



Instagram:

bokuryoukai.1923



@BOKURYOUKAI.1923

Note : [https://note.com/bokuryoukai\\_pr](https://note.com/bokuryoukai_pr)

Note は 長文、報告記事に向く。

